説教要旨「罪人を招く」

ルカによる福音書５章２７～３２節

イエス様は医者として、病人である罪人を治療なさる。その治療とは、悔い改めさせることです。イエス様による救いに与ることは、私たちの悔い改めが起ることと切り離せません。私たちは、自分の罪をはっきりと知らされなければならないのです。自分の罪を知り、自分がその罪を赦していただかなければならない者であることを知り、罪と訣別して新しくなることを求めていくところに、悔い改めが起ります。レビはそのようにして、徴税人として生きてきたそれまでの歩みから離れ、主イエスの弟子となったのです。あのシモン・ペトロも、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」という告白を与えられることを通して弟子となりました。あの中風で寝たきりだった人に対しては「あなたの罪は赦された」との救いの宣言が語られました。罪を知らされ、そしてそれを赦されて新しくされるという悔い改めによってこそ、私たちはイエスの弟子、信仰者となるのです。「何もかも捨てて」ということの中心はこの悔い改めにこそあります。自分は罪人ではない、神様に赦してもらわなければならないような者ではない、という自負、誇りを捨てて、自分が病人であることを認めて、イエス様による治療を受ける者となること、それが悔い改めです。そういう意味ではイエス様はここでファリサイ派の人々に、自分はこの人々（徴税人たち）のような罪人ではない、と思っているあなたがたは、自分は健康だと思い込んでいる病人と同じで、自分の病気を自覚しているこの人々のように治療を受けることができない、悔い改めて救いにあずかることができない、と言われたのです。

この言葉は私たちに対する問いでもあります。この言葉を聞いて、「イエス様はかわいそうな病人である罪人たちを癒すために来られたのだな。私は病気でなくてよかった」と思うのか、「イエス様、私こそ、あなたに癒していただかなければならない病人です。罪人である私をどうか救って下さい」と告白して主イエスに従っていくのか、そのことが問われているのです。

（２０１８・７・８　説教者：稲垣真実）